



6

レイモンド・キプロノさん

Mr. CHELULE RAYMOND KIPRONO

ケニア KENYA

農業省行政官



「職人」としての情熱とプロ意識

研修で、地方の農家や生産者を訪ねる機会が度々ありましたが、日本の人たちが一つ一つの農作物や商品にかける情熱、プロ意識の高さ、生産物の質の向上への努力は、まさに「職人」と呼ぶのにふさわしいものでした。そして疑問があれば、失敗例も含めてこちらが納得するまで一生懸命答えてくれる姿に、頭が下がりました。また日本では、時間厳守が基本です。それを知ってから、研修中は必ず5分前までには準備を整え、集合場所に到着するように心掛けました。時間を守り、1日の仕事を順序立てて計画的に進める、そして期日を守る。それらはどんな仕事をするにしても、とても重要な視点です。帰国後は、少しずつそうした意識を広めていきたいですね。忘れられない思い出となったのは、ある地域の祭りの見学に行ったとき、周りの人たちが声を掛けて誘ってくれ、一緒におみこしを担いだことです。国が発展しても、そうした地域に伝わる慣習や伝統を大切に作る姿勢が印象的でした。とても重く、肩も痛かったですが、良い経験ができました。

(研修地：茨城県つくば市)

5

リリアナ・ペリンさん

Ms. LILIANA PELIN

モルドバ MOLDOVA

農業食品産業省職員



常に協力し合う人々

研修でのさまざまな経験を通じて、私が日本から連想する言葉の一つが、Collaboration(協力・共同)です。研修で訪ねた農業協同組合のメンバーが、情報や知識を共有し、より良い農作物を作ろうと力を合わせている姿がとても印象的でした。外国人の私たちにに対し日本人の人々が親切なのも、そんな助け合いの精神が社会に根付いているからなのでしょう。温泉にどうやって入浴すればよいか分からず困っていた私たちに、順序やマナーなどを丁寧に教えてくれた人たち、また、バス乗り場が見つからず迷っていると、そこから歩いて20分も先の停留所にまで送り届けてくれた若者など、多くの人々が手を差し伸べてくれました。それから、酒蔵に神棚を設けて酒造りを見守る神様を祭っているところなど、日本人の生活の根底に流れる宗教的な精神にも所々で触れることができ、とても興味深かったです。そうした古き良き部分を、これからもずっと大切にしていきたいと思っています。

(研修地：北海道札幌市、夕張郡など)



シリア



ケニア



4

キファ・バージさん

Ms. KIFAH BAAJ

シリア SYRIA

水道局技師



平和を築き上げてきた力

研修の合間の8月6日。終戦記念日に広島市で行われた平和記念式典に参加することができました。唯一の被爆国である日本人の人々と、平和への祈りを共有でき、自分にとって一生忘れられない思い出となりました。原爆の荒廃から立ち直った広島や長崎の姿は、紛争が日常の中東地域に住む私たちに、大きな勇気を与えてくれるものです。また、広島市内の小学校を訪問し、子どもたちと交流する機会もありました。一緒に紙飛行機を作って飛ばしたのですが、好奇心いっぱいの笑顔で話し掛けてくるその様子に、彼らの心がまさに平和に満ち溢れているのを感じました。最後には、子どもたちが寂しがって私たちを帰してくれないほど、良い時間を過ごすことができました。日本人は秩序を守り、他人に迷惑を掛けず、謙虚です。でも、電車に乗っている人たちの多くが、とても疲れている様子なのが気になりました。日本人は、少し働き過ぎなのかもしれませんね(笑)。

(研修地：広島県広島市、東広島市)

3

ジョン・ジョン・カリンガルさん

Mr. JOHN-JOHN A. KARINGAL

フィリピン PHILIPPINES

消防隊救助チーム



消防士としての責任感と誇り

日本の消防士の皆さんから、仕事に対する責任感、作業の正確性、規律やチームワークの大切さなど、消防士として徹底すべき大切なことを改めて教えられました。特に火災現場では、限られた人数でも、各自の役割分担によってムダな動きが一つもなく、とても組織的な消火活動をしていたのが印象に残っています。また、自分の行動や作業を一つ一つ声を出して互いに知らせ合い、確認・点検する点も素晴らしいですね。帰国後、自分が指導する救助チームにも取り入れようとしているところです。日本でお世話になった消防士の方々とは、今でも交流を続けています。彼らの仕事への誇りや向上心を、今度は自分が指導する者として、自分の国の消防士に伝えていければと考えています。また、ボランティアによる地域の消防団活動では、住民が当事者意識を持ち率先してコミュニティの防災に努めていました。特に、彼らが消防士とほとんど変わらぬ訓練を受けているのを見て、大変驚きました。

(研修地：大阪府大阪市)

キリバス



2

シューツ・ソニア・モニカさん

Ms. SCHUTZ SONIA MONICA

キリバス KIRIBATI

ホテルマネージャー



訪問者へのホスピタリティ

工業化やハイ・テクノロジーといった、私が抱いていた日本のイメージとは異なり、研修で滞在した沖縄は、近代的であるものの、豊かで美しい自然と伝統文化の残る素晴らしい場所です。地域住民が土着の伝統文化に誇りを持ち、それらを観光資源として生かしているその姿は、同じ小さな島国に住む私たちにとって、とても参考になります。そして、何よりも沖縄の人々には最高のホスピタリティがあります。休日、私たちが買い物に夢中になって道に迷っても、地元の人たちが率先して帰り道を教えてくれますし、訪問者を歓迎しようという姿勢が地域全体に根付いているのと感じました。こうした人々の心の温かさと豊かな伝統、そして技術や近代化された社会が、このように共存・調和している国は、世界のどこを探してもなかなか見つからないのではないでしょうか。また、この研修で私たちと同様の環境・課題を持つ大洋州の国々からの研修員たちと出会い、将来役立つ大切なネットワークを築くことができたのも、私にとって大きな財産となりました。

(研修地：沖縄県浦添市、那覇市など)

チリ



1

レネ・フェリペ・カロカさん

Mr. RENE FELIPE OJEDA CAROCA

チリ CHILE

行政官(農業生産促進)



人々の懐の大きさと心の温かみ

お辞儀に象徴されるように、日本の「相手を尊重する」文化は素晴らしいと感じます。研修では、九州の中小企業の工場などをたくさん視察しましたが、多くの経営者たちが、従業員の意見を尊重し、常に彼らと対話を心掛けていたのに大きく感銘を受けました。社長が職場の清掃や整理整頓まで一緒に行っている会社もあって驚きました。正直言うと来日前は、先進国にありがちなドライな社会、人間的な温かみの少ない社会を勝手に想像していたんです。でも、実際は街行く人々がとても親切で、特に若者は私たちに興味を持って気さくに話し掛けてくれました。休日、長崎で有名な精霊流しを見に行ったときには、外国人の私を見て「ここに座ってください」と、ある家族がわざわざ見やすい場所を空けてくれたり、おじいさんが電車の切符の買い方を教えてくれただけでなく、自分の入場券まで買い、プラットフォームに連れて行ってくださったこともありました。日本人の懐の大きさ、心の温かさを感じました。

(研修地：福岡県北九州市)

私たちが見た、感じた日本

研修を通じ、日本の過去の経験や現代の等身大の姿を各地でつぶさに目撃してきたJICAの研修員たち。そんな彼らの目に、日本、そして私たち日本人はどのように映ったのだろう。